



図2. タイワンガザミの体重と外卵重量との関係 図3. タイワンガザミの外卵の発達段階と卵数との関係

II タイワンガザミの種苗生産試験

＜材料及び方法＞ 親ガニは1980年6月11日に沖縄市地先より三枚底刺網で漁獲されたカニより、外卵量が多くオレンジ色を示す健全な雌親ガニ5尾を選別した。親ガニは背甲に白ペンキで標識番号(1~5)を付し、屋内コンクリート水槽(2×1×0.4m)に収容し、魚肉を毎夕適宜投与し流水飼育を行なった。外卵が暗灰黒色になり、産卵前日と予想される親ガニは、夕方にふ化水槽に移し放卵ふ化を行なわせた。

カニ幼生飼育は露天で、0.5tの透明パンライト水槽1区、黒色パンライト水槽1区及び10tコンクリート水槽(5×2×1m)1区の計3区の試験を行なった。飼育計画を表2に示した。

カニ幼生の計数は、

1、2区は4ヶ所、3

区は10ヶ所より、水深20~30cm下よりピーカーで採水し、500ml中のカニ幼生数を数えた。また、3区はふ化1日後よりカニ幼生

表2. タイワンガザミの幼生飼育計画表

形態変化	ふ化、ゾエア期 / メガロパ期 / 稚ガニ
カニ幼生密度	30 個体 / ℓ
飼育水	止水 / 流水 (1/5~6 換水)
ワムシ	10 個体 / ml 以上 /
貝肉	ジュース (2g/t) / 細片 (2g/t) /
しょうゆ粕	3.5 g/t /

を採集し、その形態変化を実体顕微鏡下で観察し、各発達期の所要日数を調べた。ワムシはパン酵母で増殖後、海産グリーン中で2~3日飼育したのを投餌し、その計数は内径3mmガラス管を用い1ml中のワムシを数えた。海産クロレラ(海産グリーン)は血球計算盤を用いて計数した。貝肉は、沖縄本島北部の羽地内海に多棲する二枚貝、ホソスジヒバリガイを用いた。